

ANAホールディングス株式会社

2014年3月期 第3四半期 決算説明会

専務取締役
殿元 清司

2014年1月31日



©ANAHD2014

1

(◎ 改めまして、殿元でございます。)

◎ 本日はお忙しい中、2014年3月期 第3四半期 決算説明会にご参加頂きまして、誠にありがとうございます。

◎ それでは、第3四半期決算について、詳細をご説明させていただきます。

◎ スライド4ページをご覧ください。

目次

I. 2014年3月期 第3四半期決算

業績ハイライト	P. 4
連結決算概要(経営成績)	P. 5
連結決算概要(財政状態)	P. 6
連結決算概要(キャッシュフロー)	P. 7
連結決算概要(セグメント別実績)	P. 8
航空事業(収入・費用)	P. 9
航空事業(営業利益増減要因)	P.10
航空事業(国内・国際旅客事業)	P.11-15
航空事業(国内・国際貨物事業)	P.16-18
航空事業以外のセグメント	P.19

II. 2014年度 航空輸送事業計画

ANAグループ航空輸送事業計画	P.21-22
-----------------	---------

III. 補足資料

燃油・為替情報	P.24-25
国際旅客 方面別実績	P.27
国際貨物 方面別実績	P.28
運用航空機数	P.29

I . 2014年3月期 第3四半期決算



業績ハイライト

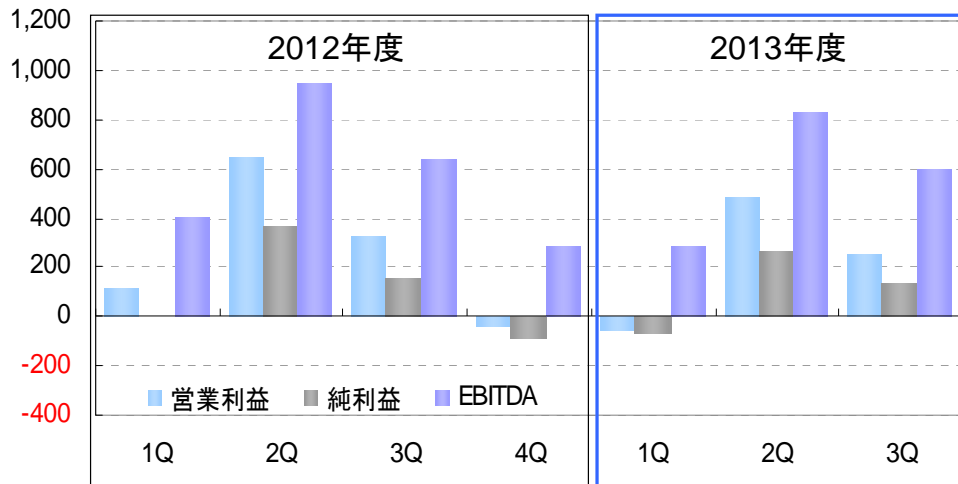
当第3四半期と前年度各四半期の業績比較

【FY2013 第3四半期 累計(連結)】

- 営業利益 : 690億円 (前年同期比 △ 384億円)
- 当期純利益 : 333億円 (同 △ 189億円)
- EBITDA : 1,703億円 (同 △ 286億円)

第3四半期のみ(10-12月期)

- 営業利益 257億円
- 当期純利益 132億円
- EBITDA 593億円



©ANAHD2014 単位:億円 (¥100Million)

4

◎ 業績ハイライトです。

◎ 2013年度 第3四半期の営業利益は、今四半期単独で257億円となり、累計では前年同期から384億円減の690億円となりました。

◎ 当期純利益は、前年同期から189億円減の333億円となりました。

◎ キャッシュフロー指標であるEBITDAは、286億円減の1,703億円でしたが、第3四半期単独では593億円となり、前年に迫る水準まで回復しています。

◎ 5ページをご覧ください。

連結決算概要

経営成績		単位:億円 (¥100Million)	前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference	第3四半期 3Q/FY13	前年差 Difference
営業収入	Operating Revenues		11,321	12,120	+ 798	4,143	+ 354
営業費用	Operating Expenses		10,246	11,429	+ 1,183	3,886	+ 419
営業利益	Operating Income		1,075	690	△ 384	257	△ 64
営業利益率	Op. Margin (%)		9.5	5.7	△ 3.8	6.2	△ 2.3
営業外損益	Non-Op. Gains/Losses		△ 184	△ 153	+ 30	△ 39	+ 25
経常利益	Recurring Income		891	536	△ 354	217	△ 39
特別損益	Extraordinary Gains/Losses		△ 7	22	+ 30	8	+ 13
当期純利益	Net Income		522	333	△ 189	132	△ 20
少数株主損益調整前 当期純利益	Net Income Before Minority Interests		515	321	△ 193	132	△ 16
その他包括利益	Other Comprehensive Income		△ 25	232	+ 257	232	+ 108
包括利益	Comprehensive Income		489	553	+ 64	365	+ 92

©ANAHD2014

5

◎ 経営成績の概要でございます。

◎ 営業収入は、

国内線のプロモーション運賃拡大による需要喚起や、
国際線における単価向上等により、
前年同期から**798億円増の1兆2,120億円**となりました。
第3四半期累計の営業収入としては過去最高となっています。

◎ 営業費用は、

事業規模の拡大に伴う生産連動・収入連動費用の増加に加え、
円安の影響で燃油費が増加した結果、
前年同期と比べて**1,183億円**増加しました。

◎ その結果、営業利益は**690億円**、経常利益は**536億円**、
当期純利益は**333億円**の増収減益決算となりました。

◎ **6ページ**をご覧ください。

連結決算概要

財政状態

単位:億円
(¥100Million)

		前期末 Mar 31, 2013	第3四半期末 Dec 31, 2013	前年度期末差 Difference
総資産	Assets	21,372	21,549	+ 177
自己資本	Shareholders' Equity	7,667	8,044	+ 377
自己資本比率	Ratio of Shareholders' Equity (%)	35.9	37.3	+ 1.5
有利子負債残高	Interest Bearing Debts	8,971	8,272	△ 699
D/Eレシオ(倍)*	Debt/Equity Ratio (times)	1.2	1.0	△ 0.1
純有利子負債残高**	Net Interest Bearing Debts	4,775	4,280	△ 494

* オフバランスリース債務額1,251億円(前期末1,368億円)を含むD/Eレシオは1.2倍(前期末1.3倍)

** 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産(現金及び預金 + 有価証券))

©ANAHD2014

6

◎ 財政状態です。

◎ 総資産は、前期末よりやや増加して、2兆1,549億円となりました。

◎ 自己資本は、8,044億円となり、自己資本比率は37.3%となりました。

◎ 有利子負債残高は、債務の返済を進めると共に、新規借入れを抑制した結果、699億円減少して、8,272億円となっています。

◎ この結果、D/Eレシオは前期末より改善して、1.0倍となりました。

◎ 7ページをご覧ください。

連結決算概要

キャッシュフロー		単位:億円 (¥100Million)	前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference
営業キャッシュフロー	Cash Flow from Operating Activities		1,667	1,909	+ 241
投資キャッシュフロー	Cash Flow from Investing Activities		△ 4,725	△ 1,456	+ 3,268
財務キャッシュフロー	Cash Flow from Financing Activities		1,152	△ 920	△ 2,073
現金及び現金同等物の増減額	Net Increase or Decrease		△ 1,903	△ 467	+ 1,436
現金及び現金同等物の期首残	Cash and Cash Equivalent at the beginning		2,658	1,912	} △ 466 **
現金及び現金同等物の期末残高	Cash and Cash Equivalent at the end		765	1,446	
減価償却費	Depreciation and Amortization		914	1,012	+ 97
設備投資額(固定資産のみ)	Capital Expenditures		1,123	1,373	+ 250
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	Substantial Free Cash Flow (excluding periodic/negotiable deposits of more than 3 months)		915	715	△ 200
EBITDA *	EBITDA		1,990	1,703	△ 286
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)		17.6	14.1	△ 3.5

* EBITDA: 営業利益+減価償却費

©ANAHD2014 ** 連結範囲変更に伴う現金及び現金同等物への影響額含む

7

◎ キャッシュフローです。

◎ 営業キャッシュフローは、
前年同期に比べて**241億円増の1,909億円**の収入となりました。

◎ 投資キャッシュフローは、**1,456億円**の支出となりました。
なお、投資キャッシュフローのうち、
3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除いた実質フリーキャッシュフローは、
下から3段目にございます、**715億円**となっています。

◎ 財務キャッシュフローは、**920億円**の支出となりました。

◎ **8ページ**をご覧ください。

連結決算概要

セグメント別実績		単位: 億円 (¥100Million)	前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference	第3四半期 3Q/FY13	前年差 Difference
売上高 Revenues	航空事業	Air Transportation	9,876	10,565	+ 689	3,600	+ 296
	航空関連事業	Airline Related	1,316	1,422	+ 106	491	+ 49
	旅行事業	Travel Services	1,236	1,335	+ 98	427	+ 34
	商社事業	Trade and Retail	756	826	+ 70	288	+ 24
	報告セグメント計	Total for Reporting Segments	13,185	14,150	+ 964	4,809	+ 405
	その他	Others	212	217	+ 5	74	+ 2
	調整額	Adjustment	△ 2,076	△ 2,248	△ 171	△ 740	△ 52
	合計(連結)	Total	11,321	12,120	+ 798	4,143	+ 354
営業利益 Operating Income	航空事業	Air Transportation	942	626	△ 316	234	△ 35
	航空関連事業	Airline Related	57	62	+ 5	24	△ 1
	旅行事業	Travel Services	43	42	△ 1	14	+ 0
	商社事業	Trade and Retail	26	29	+ 2	10	△ 1
	報告セグメント計	Total for Reporting Segments	1,069	759	△ 309	283	△ 37
	その他	Others	7	9	+ 1	4	+ 1
	調整額	Adjustment	△ 2	△ 78	△ 76	△ 31	△ 29
	合計(連結)	Total	1,075	690	△ 384	257	△ 64

©ANAHD2014

8

◎ こちらはセグメント別の実績です。

◎ それでは、航空事業につきまして、詳細をご説明いたします。

◎ 10ページをご覧ください。

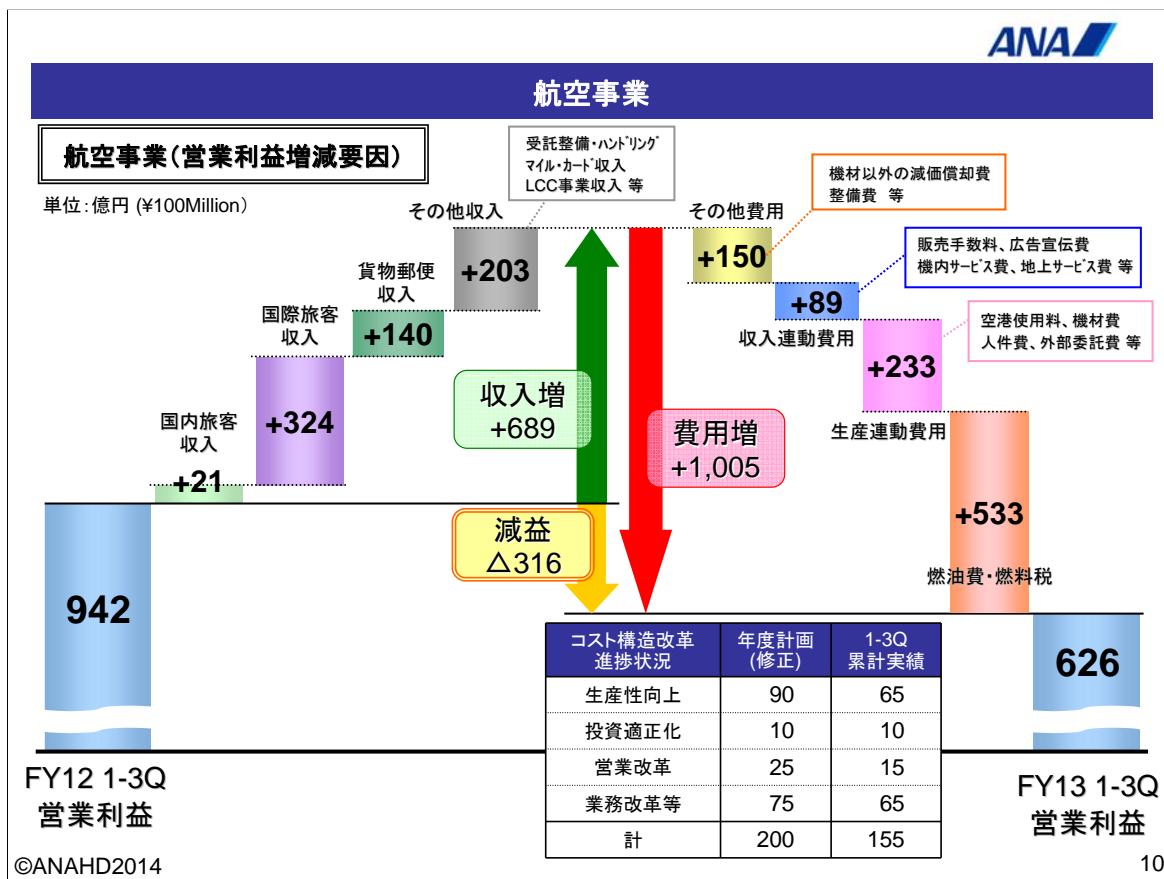
航空事業

収入・費用		単位:億円 (¥100Million)	前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference	第3四半期 3Q/FY13	前年差 Difference
営業収入 Operating Revenues	国内線旅客	Domestic Passengers	5,160	5,182	+ 21	1,738	+ 8
	国際線旅客	International Passengers	2,649	2,974	+ 324	1,008	+ 157
	貨物郵便	Cargo and Mail	945	1,085	+ 140	400	+ 62
	その他	Others	1,119	1,323	+ 203	453	+ 68
	合計	Total	9,876	10,565	+ 689	3,600	+ 296
営業費用 Operating Expenses	燃油費・燃料税	Fuel and Fuel Tax	2,208	2,741	+ 533	937	+ 174
	空港使用料	Landing and Navigation Fees	767	818	+ 51	271	+ 16
	航空機材賃借費	Aircraft Leasing Fees	528	588	+ 60	199	+ 23
	減価償却費	Depreciation and Amortization	884	962	+ 78	326	+ 26
	整備部品・外注費	Aircraft Maintenance	526	638	+ 111	223	+ 35
	人件費	Personnel	1,265	1,213	△ 52	379	△ 21
	販売費	Sales Commission and Promotion	531	581	+ 49	204	+ 25
	外部委託費	Contracts	1,024	1,178	+ 153	397	+ 54
	その他	Others	1,195	1,216	+ 20	425	△ 4
	合計	Total	8,933	9,939	+ 1,005	3,366	+ 331
営業利益	営業利益	Operating Income	942	626	△ 316	234	△ 35
EBITDA*	EBITDA		1,826	1,608	△ 217	559	△ 10
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)		18.5	15.2	△ 3.3	15.5	△ 1.7

©ANAHD2014

* EBITDA: 営業利益+減価償却費、休止固定資産減価償却費等を含む

9



◎ 航空事業の、営業損益の前年同期比較による増減分析です。

◎ 営業収入は、国内旅客で21億円、国際旅客で324億円、貨物郵便で140億円、その他収入も203億円増加した結果、合計で689億円の増収となりました。
 なお、12月20日から就航を開始したバニラエアについては、年末年始のL/Fが、国内線と国際線を合わせると90.2%となり、順調な滑り出しとなっています。

◎ 営業費用は、国際線の事業規模拡大に伴う生産連動費用や燃油費の合計で、1,005億円の増加となりました。燃油費は円安の影響を中心に、前年同期比24%増の533億円増加となっています。

◎ 以上より、当第3四半期累計の営業利益は、34%減の626億円となりました。

◎ なお『1,000億円のコスト構造改革』について、中間決算の段階で、今年度の計画を200億円に修正しましたが、第3四半期までの累計では、155億円の削減となっています。
 第4四半期も着実に取り組み、年度末までに目標を達成してまいります。

◎ 続きまして、12ページから事業別の動向をご説明します。

航空事業

国内旅客事業(実績)		前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年比 % Y/Y	第3四半期 3Q/FY13	前年比 % Y/Y
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	44,561	46,423	+ 4.2	15,282	+ 3.0
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	27,845	28,809	+ 3.5	9,858	+ 3.7
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	31,568	32,566	+ 3.2	11,195	+ 3.7
座席利用率(%)	Load Factor (%)	62.5	62.1	△ 0.4*	64.5	+ 0.4*
旅客収入(億円)	Passenger Revenues (¥100million)	5,160	5,182	+ 0.4	1,738	+ 0.5
ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ASK)	11.6	11.2	△ 3.6	11.4	△ 2.5
イールド(円)	Yield (¥/RPK)	18.5	18.0	△ 2.9	17.6	△ 3.1
単価(円)	Unit Price (¥/Passenger)	16,348	15,912	△ 2.7	15,526	△ 3.1

*座席利用率のみ前年差

※ 旧エアアジア・ジャパン／バニラエアは上記に含みませんが、当第3四半期(累計)における輸送実績は
座席キロは595百万席キロ(前年比 +55.0%)、旅客キロは399百万人キロ(前年比 +67.9%)、
旅客数は370千人(前年比 +75.9%)、座席利用率は67.2% (前年差 +5.2%) となりました。

航空事業

国内旅客事業(事業動向)

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエア含まず)

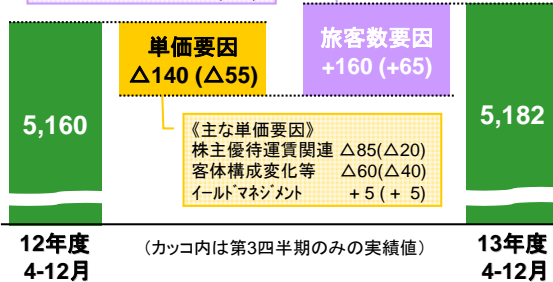
第3四半期 収入増減要因

✓プロモーション運賃の戦略的な投入で引き続き増収

《主な旅客数要因》

羽田増枠	+95 (+25)
生産量増	+30 (+10)
他社生産量増	△55(△20)
株主優待運賃関連	+40 (+10)
B787運航停止	△25 (-)
需要喚起策等	+75 (+40)

単位:億円(¥100Million)

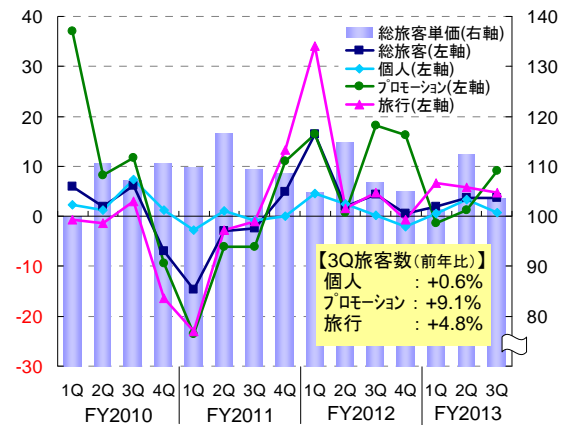


四半期別 客体別旅客数・単価推移

✓全客体が増加、特にプロモーション客体の伸びが顕著

旅客数(前年比:%)

単価(指数:10年度1Q=100)



当四半期の主なピックアップ:

→ ANAとSFJの提携(羽田-福岡線、2014年2月1日より) 【11月8日付】

→ 羽田空港第2ターミナルのサービス改善(搭乗エリアの色分け、搭乗券の発行場所変更など) 【12月11日付】

©ANAHD2014

12

◎ 国内旅客の状況です。

左の図は、第3四半期における増収額を要因分解しております。

◎ 単価要因としては、株主優待の拡大や、

プレジャー需要拡大による客体構成の変化により、140億円の減収となりました。

◎ 旅客数要因としては、羽田空港の増枠を含めた事業規模拡大や、

需要喚起を目的とした戦略的なプロモーション運賃の投入で、

160億円の増収となりました。

◎ 結果、全体では前年同期比 0.4%増の21億円の増収となりました。

第2四半期まではL/Fが前年比で低下していましたが、需給適合を進めた結果、

第3四半期のL/Fは、前年比で+0.4%の上昇に転じています。

◎ 右の図では、客体別の旅客数及び単価の四半期別推移をお示ししています。

全ての客体で前年比増加となっておりますが、

中でも10月末からメニューを拡大したプロモーション運賃の旅客数は、

前年比9.1%増と際立っています。

◎ 次に、14ページをご覧ください。

航空事業

国際旅客事業(実績)		前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年比 % Y/Y	第3四半期 3Q/FY13	前年比 % Y/Y
座席キロ(百万)	Available Seat Km (million)	28,218	30,908	+ 9.5	10,729	+ 10.3
旅客キロ(百万)	Revenue Passenger Km (million)	21,395	22,867	+ 6.9	7,778	+ 10.3
旅客数(千人)	Passengers (thousands)	4,769	4,757	△ 0.3	1,586	+ 8.9
座席利用率(%)	Load Factor (%)	75.8	74.0	△ 1.8*	72.5	△ 0.0*
旅客収入(億円)	Passenger Revenues (¥100million)	2,649	2,974	+ 12.2	1,008	+ 18.4
ユニットレベニュー(円)	Unit Revenue (¥/ASK)	9.4	9.6	+ 2.5	9.4	+ 7.4
イールド(円)	Yield (¥/RPK)	12.4	13.0	+ 5.0	13.0	+ 7.4
単価(円)	Unit Price (¥/Passenger)	55,554	62,521	+ 12.5	63,568	+ 8.8

*座席利用率のみ前年差

※ 旧エアアジア・ジャパン/バニラエアは上記に含みませんが、当第3四半期(累計)における輸送実績は
座席キロは341百万席キロ(前年比 +731.6%)、旅客キロは228百万人キロ(前年比 +902.8%)、
旅客数は166千人(前年比 +768.1%)、座席利用率は66.9% (前年差 +11.4%) となりました。

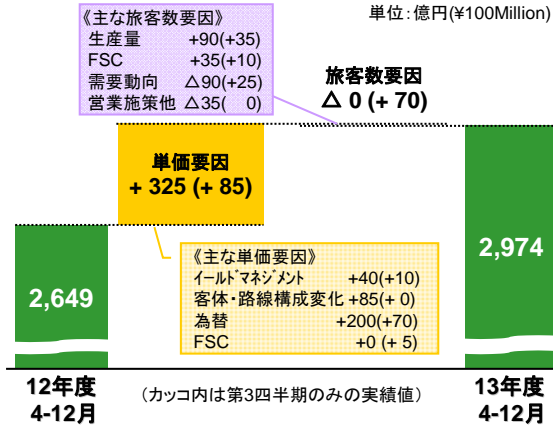
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエアを含まず)

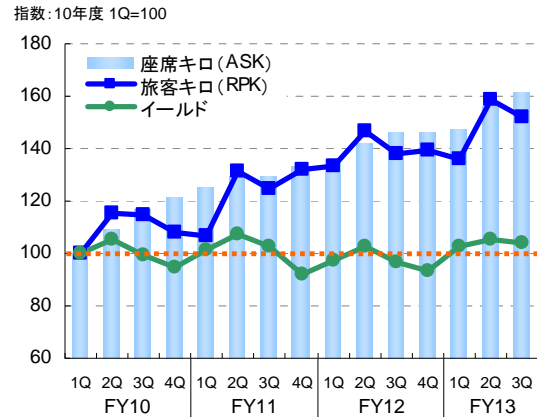
第3四半期 収入増減要因

✓ 単価が引き続き堅調、中国線の回復で旅客数も増加



四半期別 座席キロ・旅客キロ・イールド推移

✓ 全方面とも好調、旅客キロが座席キロ並みに増加



当四半期の主なトピックス:

- 燃油特別付加運賃の改定 (日本=欧米(ハワイ除く)・中東等 21,000円→23,500円、12月1日購入分より) 【10月21日付】
- 2014年サマーダイヤ 国際線路便計画の決定 【12月4日付・12月18日付】
- ガルーダ・インドネシア航空との包括提携締結 【12月19日付】

©ANAHD2014

14

◎ 国際旅客の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 単価要因では、円安による単価改善や、
方面別の需要動向を踏まえたイールドマネジメントの強化が功を奏し、
325億円の増収となりました。

◎ 旅客数要因では、第3四半期においては、北米・アジアの堅調な需要と、
中国線の回復に支えられ、70億円の増収となりました。
これにより、上期において、ボーイング787型機の運航停止と、
中国線の影響が主な要因となった、旅客数要因による減収分を、
打ち消す状況となっています。

◎ 以上の結果、全体では、前年比12.2%増となる324億円の増収となりました。
第3四半期単独で、第2四半期までの増収額とほぼ同等となる、
155億円の増収となっています。

◎ 右の図は、四半期別の座席キロ、旅客キロ、イールドの推移をお示しています。

◎ 総じて需要が堅調に推移した結果、
座席キロに連動して旅客キロも同じペースで増加しており、
イールドも水準を維持しております。

◎ 15ページをご覧ください。

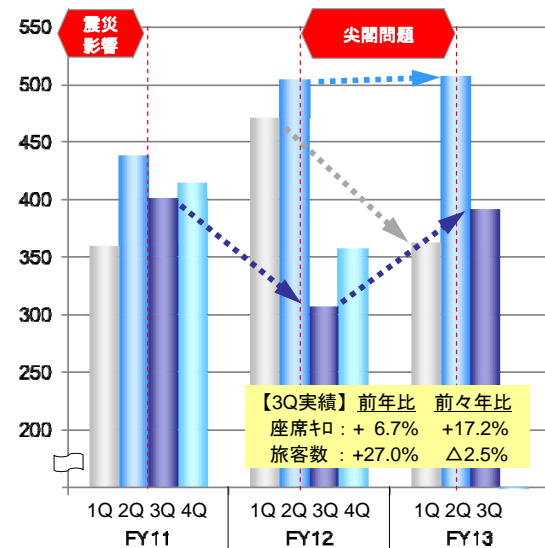
航空事業

国際旅客事業(事業動向)

(旧エアアジア・ジャパン、パニラエアを含まず)

中国線 旅客数推移

✓ 中国発インバウンド需要が回復、旅客数が大幅増
(旅客数:千人)

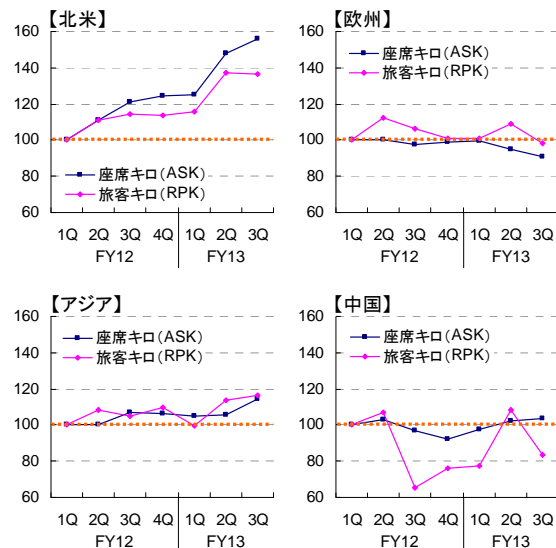


©ANAHD2014

四半期別 国際線方面別 輸送実績推移

✓ とりわけ北米・アジアの旅客キロが堅調に推移

(指数: FY12 1Q=100)



15

◎ 中国線の動向について補足します。

左のグラフは、中国線における四半期毎の旅客数を、お示したものです。

◎ 2013年度 第1四半期は、尖閣問題の影響により、旅客数が前年同期比で、大幅に減少していました。

第2四半期になると、中国発インバウンド需要が回復してまいりました。

そして第3四半期では、総旅客が前年を大幅に上回る実績となりました。

◎ 依然として、日本発のプレジャー需要は弱含んでいますが、

第3四半期は、総旅客数が前々年に近い水準まで回復していることから、

尖閣問題の影響が、収束しつつあると受け止めております。

◎ 次に、18ページをご覧ください。

航空事業

国内貨物事業(実績)		前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年比 % Y/Y	第3四半期 3Q/FY13	前年比 % Y/Y	
国内貨物 Domestic Cargo	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	1,467	1,503	+ 2.5	497	+ 1.2
	有償貨物トンキロ(百万)	Revenue Ton Km (million)	356	357	+ 0.3	136	+ 3.6
	貨物輸送重量(千トン)	Revenue Ton (thousand tons)	359	361	+ 0.6	138	+ 3.7
	貨物重量利用率(%)	Load Factor (%)	24.3	23.8	△ 0.5*	27.4	+ 0.6*
	貨物収入(億円)	Cargo Revenues (¥100million)	249	243	△ 2.4	90	△ 0.1
	ユニットレヴェニュー(円)	Unit Revenue (¥/ATK)	17.0	16.2	△ 4.8	18.2	△ 1.3
	重量単価(円/kg)	Unit Price (¥/kg)	69	67	△ 2.9	66	△ 3.7
	【参考】 上記内数 国内 フレイター Domestic Freighter	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	22	22	△ 0.6	7
有償貨物トンキロ(百万)		Revenue Ton Km (million)	8	7	△ 16.7	2	△ 35.1
貨物輸送重量(千トン)		Revenue Ton (thousand tons)	7	7	△ 3.7	2	△ 18.0
貨物重量利用率(%)		Load Factor (%)	38.4	32.2	△ 6.2*	32.3	△ 15.5*
貨物収入(億円)		Cargo Revenues (¥100million)	9	9	+ 1.3	3	+ 0.1
ユニットレヴェニュー(円)		Unit Revenue (¥/ATK)	41.8	42.6	+ 1.9	41.5	+ 4.4
重量単価(円/kg)		Unit Price (¥/kg)	120	126	+ 5.3	120	+ 22.2

©ANAHD2014

*貨物重量利用率のみ前年差

16

航空事業

国際貨物事業(実績)		前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年比 % Y/Y	第3四半期 3Q/FY13	前年比 % Y/Y	
国際貨物 International Cargo	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	2,962	3,373	+ 13.9	1,203	+ 16.3
	有償貨物トンキロ(百万)	Revenue Ton Km (million)	1,830	2,165	+ 18.3	799	+ 20.4
	貨物輸送重量(千トン)	Revenue Ton (thousand tons)	463	528	+ 14.0	194	+ 14.3
	貨物重量利用率(%)	Load Factor (%)	61.8	64.2	+ 2.4*	66.4	+ 2.3*
	貨物収入(億円)	Cargo Revenues (¥100million)	640	776	+ 21.2	285	+ 25.9
	ユニットレヴェニュー(円)	Unit Revenue (¥/ATK)	21.6	23.0	+ 6.4	23.7	+ 8.3
	重量単価(円/kg)	Unit Price (¥/kg)	138	147	+ 6.3	147	+ 10.1
	【参考】 上記内数 国際 フレイター International Freighter	有効貨物トンキロ(百万)	Available Ton Km (million)	649	727	+ 12.0	265
有償貨物トンキロ(百万)		Revenue Ton Km (million)	380	446	+ 17.2	165	+ 15.9
貨物輸送重量(千トン)		Revenue Ton (thousand tons)	216	242	+ 11.9	88	+ 11.2
貨物重量利用率(%)		Load Factor (%)	58.6	61.3	+ 2.7*	62.3	+ 2.2*
貨物収入(億円)		Cargo Revenues (¥100million)	241	289	+ 19.9	104	+ 22.8
ユニットレヴェニュー(円)		Unit Revenue (¥/ATK)	37.2	39.8	+ 7.0	39.4	+ 9.8
重量単価(円/kg)		Unit Price (¥/kg)	111	119	+ 7.2	118	+ 10.4

©ANAHD2014

*貨物重量利用率のみ前年差

17

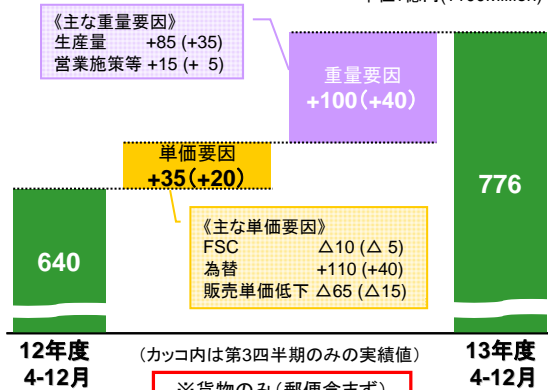
航空事業

国際貨物事業(事業動向)

第3四半期 収入増減要因

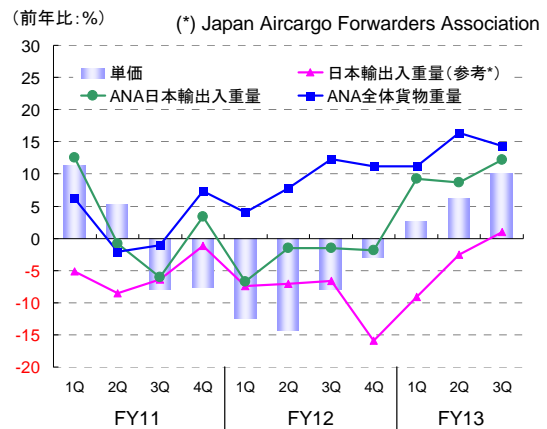
✓ 単価改善と重量増加(生産量拡大)で増収

単位:億円(¥100Million)



四半期別 輸送実績・単価推移

✓ 三国間物流を軸として取扱重量が引き続き増加



当四半期の主なトピックス:

- 貨物事業会社「株式会社ANA Cargo」の始動について【12月24日付】
- 沖縄貨物ハブおよび貨物便ネットワークの拡充について【12月24日付】

©ANAHD2014

18

◎ 国際貨物の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 単価要因では、主に円安の影響等によって計35億円の増収となり、重量要因では、生産量拡大、営業施策の実施により、100億円の増収となりました。この結果、全体では135億円の増収となりました。

◎ 右の図では、日本全体の輸出入貨物、当社の全体および輸出入貨物の四半期別の推移をお示ししています。

◎ 第3四半期は、日本全体の輸出入貨物が、前年同期比でようやく増加に転じました。一方、当社では、アジア-北米間の需要や、沖縄ハブの活用によるアジア域内流動も、積極的に取り込みました。

◎ 結果、当社全体の貨物取扱重量は、前年度の第3四半期から継続して10%以上の伸びとなっています。

◎ 以上、航空3事業の特徴についてご説明しました。

◎ 次に21ページをご覧ください。

航空事業以外のセグメント

セグメント別実績

単位:億円 (¥100Million)

		航空関連事業			旅行事業		
		前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference	前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference
売上高	Revenues	1,316	1,422	+ 106	1,236	1,335	+ 98
営業利益	Op. Income	57	62	+ 5	43	42	△ 1
減価償却費	Depreciation and Amortization	22	23	+ 0	0	0	△ 0
EBITDA*	EBITDA	79	85	+ 6	44	42	△ 1
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	6.0	6.0	△ 0.0	3.6	3.2	△ 0.4
		商社事業			その他		
		前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference	前年同期 1-3Q/FY12	第3四半期累計 1-3Q/FY13	前年差 Difference
売上高	Revenues	756	826	+ 70	212	217	+ 5
営業利益	Op. Income	26	29	+ 2	7	9	+ 1
減価償却費	Depreciation and Amortization	5	5	△ 0	1	1	△ 0
EBITDA*	EBITDA	32	34	+ 2	9	10	+ 0
EBITDAマージン	EBITDA Margin (%)	4.3	4.2	△ 0.1	4.6	4.9	+ 0.3

©ANAHD2014

* EBITDA : 営業利益 + 減価償却費

19

Ⅱ. 2014年度 航空輸送事業計画



2014年度 航空輸送事業計画 ①

ANAグループ航空輸送事業計画

国内線旅客事業	国際線旅客事業	貨物事業
需給適合の更なる追求	首都圏ネットワークの拡充	フレイター増機の活用
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 羽田発着路線 <ul style="list-style-type: none"> ・「政策コンテスト枠」による増便 ・日中暫定枠の活用 ◆ 伊丹発着路線 <ul style="list-style-type: none"> ・規制緩和による新規開設・増便 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ デュアルハブネットワーク戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・羽田で最大の国際線ネットワーク ・成田で北米-アジア接続強化 ◆ B787型機の順次投入 <ul style="list-style-type: none"> ・中距離仕様の投入 ・長距離仕様による新規就航 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 貨物ネットワークの拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄ハブネットワークの拡大 ・新規路線の開設 ◆ 中国新規路線の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・認可取得による運航開始
機材関連	追加発注した国際線機材の受領 B777-300ER x 3機(下期以降)	貨物専用フレイター機の増機 (B767-300F 計10機体制に)
B787-9 の受領開始(上期より)		

- ◆ 競争力の高い羽田国際線の増枠を最大のチャンスと捉えて首都圏全体で国際線の利便性を向上
- ◆ 重要な収益基盤となる国内線事業は、競争環境と需要動向を見極めながら事業規模を調整

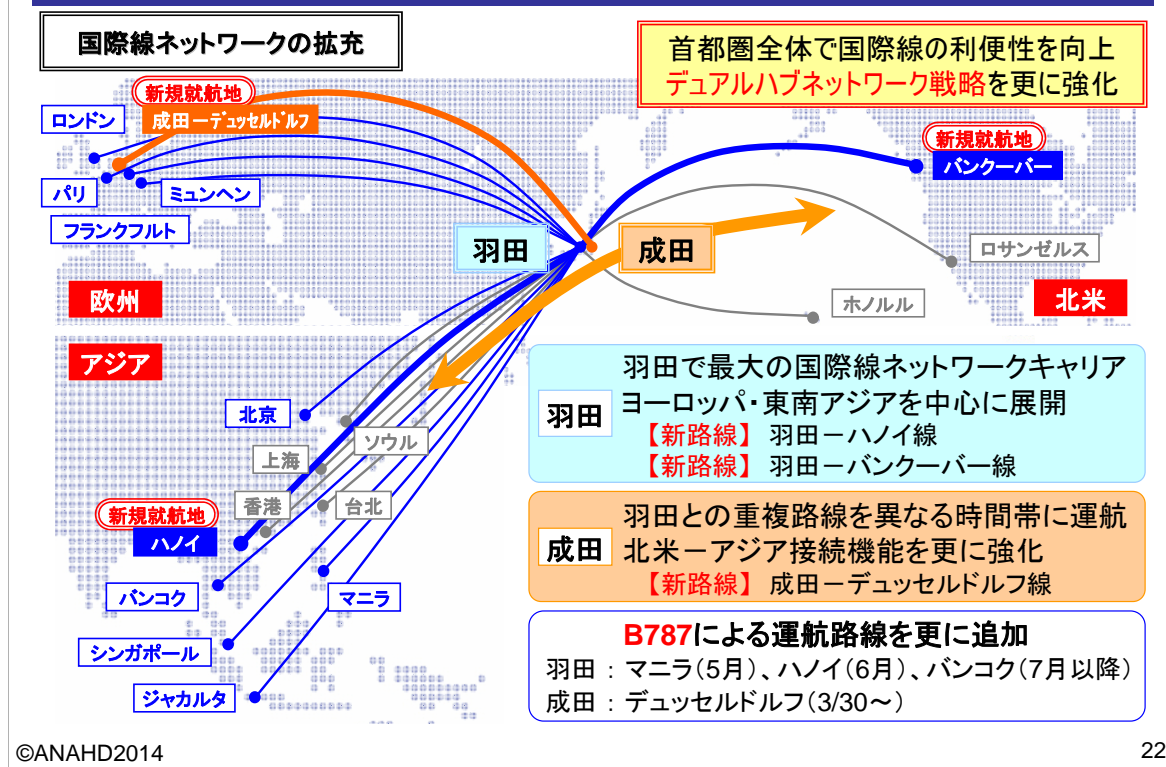
「継続的な収益性の確保」と「競争優位の実現」を目指す

©ANAHD2014

21

- ◎ 昨年12月から1月にかけて、2014年度 上期の事業計画を公表しております。その内容について、概略をご説明いたします。
- ◎ 国内線旅客事業は、需給適合を更に追求していくことを前提に、羽田空港の政策コンテスト枠を活用した増便や、伊丹空港の規制緩和を受けた新路線の開設並びに増便等を実施します。
- ◎ 国際線旅客事業は、首都圏からの国際線を中心に生産量を拡充します。詳細は次のページでご紹介します。
- ◎ 貨物事業は、貨物専用フレイター機材を10機体制にして、沖縄ハブを含めた貨物ネットワークの拡大や、中国・シンガポールへの新路線を展開します。
- ◎ なお、機材関連として、上期からボーイング787-9型機の受領を開始するほか、昨年7月に追加発注した国際線用のボーイング777-300ER型機が、下期から順次デリバリーされる予定です。
- ◎ 2014年度は、国際線ネットワークの強化を通して、継続的な収益性を確保するとともに、競争優位の実現を目指してまいります。
- ◎ 収支計画や生産量などの諸元も含めた来年度以降の経営戦略については、2月14日に改めて説明の機会を設けさせていただきます。
- ◎ 続いて、22ページをご覧ください。

2014年度 航空輸送事業計画 ②



- ◎ 3月末から増便を予定している国際線ネットワークのご紹介です。
- ◎ 羽田と成田のそれぞれの強みを活かしながら、首都圏全体で国際線の利便性を向上させてまいります。
- ◎ 羽田からは、ヨーロッパや東南アジアを中心にネットワークを展開します。また、新規就航地として、羽田-ハノイ線、羽田-バンクーバー線を開設します。この結果、羽田からの国際線は、現在の10路線13便から、17路線23便に拡大し、羽田における最大の国際線ネットワークキャリアとなります。
- ◎ 成田では、羽田と重複する路線を異なる時間帯に運航して選択肢を広げます。また、成田-ジャカルタ線の運航スケジュールを変更するなど、北米-アジア間の接続機能を更に強化していく計画です。成田からの新規就航地としては、「成田-デュッセルドルフ線」を開設します。
- ◎ なお、ボーイング787型機で運航する路線を、更に追加していく予定です。
- ◎ 最後に24ページをご覧ください。

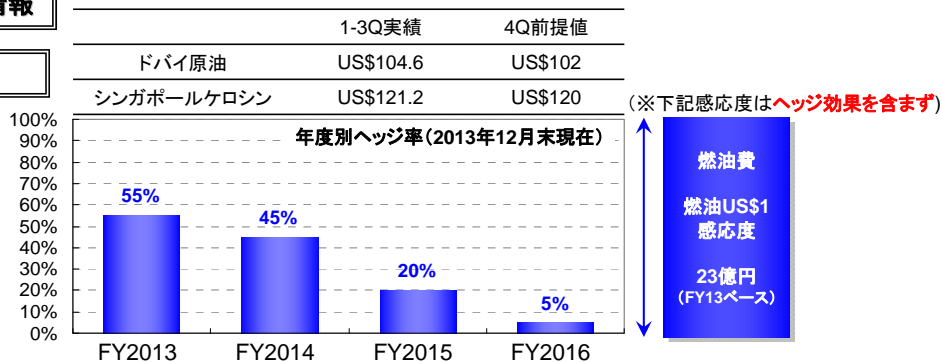
Ⅲ. 補足資料



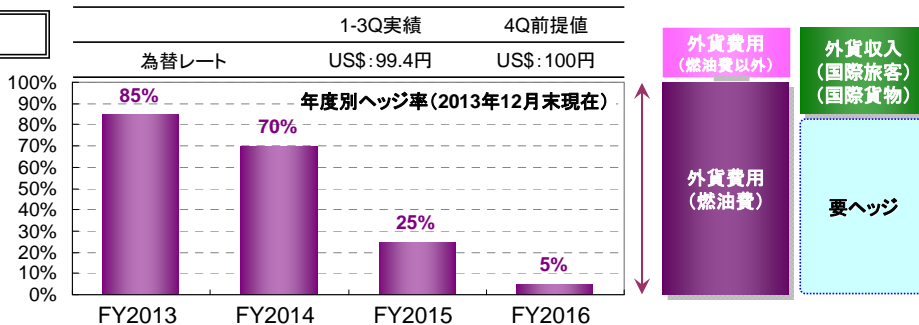
補足資料

燃油・為替情報

燃油



為替



©ANAHD2014

24

◎ 燃油と為替のヘッジ状況についてご説明します。

◎ ヘッジの進め方として、

均等に進捗させていくという基本的な考え方は変えていませんが、
昨年来の急激な市況変動をふまえて、一部で機動的な対応を実施しました。

◎ 下段のグラフが為替ヘッジの進捗状況ですが、昨年12月末の時点で、今年度の対応は既に終了しており、来年度分も、燃油費の70%相当まで進めています。

◎ 以上で、私からの説明を終わらせて頂きます。

ご静聴ありがとうございました。

補足資料

2014年3月期 為替変動の収支影響

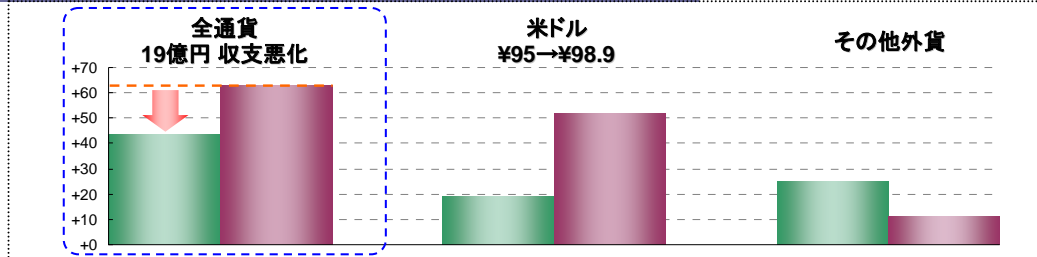
(営業損益ベース/ヘッジ効果込み)

(単位:億円)

収入

費用

上期実績 (4月30日付 業績予想前提レート vs. 期間加重平均実績)



下期予想 (10月30日付 業績予想修正レート vs. 期間加重平均実績(※))



※ 第3四半期実績及び足元実勢からの想定

Intentionally Blank

補足資料

国際旅客 方面別実績			第3四半期 累計構成比 1-3Q/FY13 Composition	前年差 Difference	第3四半期 構成比 3Q/FY13 Composition	前年差 Difference
(パナエア/旧エアアジア・ジャパンを含まず)						
旅客収入 Revenue	北米	North America	31.8	+ 3.4	32.9	+ 2.7
	欧州	Europe	20.1	△ 1.8	18.6	△ 2.8
	中国	China	16.0	△ 1.0	15.3	+ 0.9
	アジア	Asia	27.9	△ 0.0	29.2	+ 0.0
	リゾート	Resort	4.3	△ 0.5	4.0	△ 0.8
座席キロ ASK	北米	North America	35.1	+ 5.3	36.8	+ 5.2
	欧州	Europe	18.5	△ 2.6	16.9	△ 3.2
	中国	China	13.0	△ 1.1	12.8	△ 0.4
	アジア	Asia	28.6	△ 1.0	28.9	△ 0.9
	リゾート	Resort	4.8	△ 0.6	4.6	△ 0.6
旅客キロ RPK	北米	North America	35.4	+ 3.8	36.5	+ 2.8
	欧州	Europe	19.1	△ 2.0	17.9	△ 3.4
	中国	China	10.5	△ 0.9	9.6	+ 1.4
	アジア	Asia	29.5	△ 0.5	30.6	+ 0.2
	リゾート	Resort	5.5	△ 0.5	5.4	△ 0.9

補足資料

国際貨物 方面別実績		第3四半期 累計構成比 1-3Q/FY13 Composition	前年差 Difference	第3四半期 構成比 3Q/FY13 Composition	前年差 Difference
貨物収入 Revenue	北米 North America	21.6	+ 1.7	22.6	+ 2.4
	欧州 Europe	14.2	△ 1.0	13.7	△ 1.1
	中国 China	37.2	△ 0.3	37.1	+ 0.2
	アジア Asia	19.9	△ 0.6	19.8	△ 0.8
	その他 Others	7.1	+ 0.1	6.8	△ 0.7
有効貨物 トンキロ ATK	北米 North America	38.0	+ 6.1	38.9	+ 6.7
	欧州 Europe	20.1	△ 3.1	17.7	△ 4.1
	中国 China	17.5	△ 3.1	17.6	△ 2.4
	アジア Asia	20.3	+ 0.1	21.2	△ 0.3
	その他 Others	4.2	△ 0.0	4.6	+ 0.1
有償貨物 トンキロ RTK	北米 North America	39.2	+ 4.4	40.6	+ 5.2
	欧州 Europe	22.7	△ 4.1	21.1	△ 4.8
	中国 China	16.0	△ 1.2	16.0	△ 1.0
	アジア Asia	17.8	+ 1.0	17.9	+ 1.1
	その他 Others	4.3	△ 0.1	4.3	△ 0.5

補足資料

運用航空機数		前年度末 Mar, 2013	当期末 Dec, 2013	増減 Change	保有機数 Owned	リース機数 Leased
大型機 Wide-Body	Boeing 747-400 (Domestic)	5	3	△ 2	3	0
	Boeing 777-300ER	19	19	-	16	3
	Boeing 777-300	7	7	-	7	0
	Boeing 777-200ER	10	12	+ 2	6	6
	Boeing 777-200	16	16	-	14	2
中型機 Mid-Body	Boeing 787-8	17	23	+ 6	23	0
	Boeing 767-300ER	26	26	-	6	20
	Boeing 767-300	25	22	△ 3	22	0
	Boeing 767-300F	2	2	-	0	2
	Boeing 767-300BCF	7	7	-	7	0
小型機 Narrow-Body	Airbus A320-200	22	18	△ 4	16	2
	Boeing 737-800	21	24	+ 3	23	1
	Boeing 737-700ER	2	2	-	2	0
	Boeing 737-700	14	12	△ 2	9	3
	Boeing 737-500	16	15	△ 1	14	1
リージョナル機 Regional	Bombardier DHC-8-400 (Q400)	20	21	+ 1	10	11
	Bombardier DHC-8-300 (Q300)	1	1	-	1	0
合計 Total		230	230	-	179	51

©ANAHD2014

パニラエア運用 A320-200 リース 2機を含む
2013年12月末現在、グループ外にリースしている機数を除く（当期末 15機、前年度末 13機）

29

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に
世界をつなぐ心の翼で
夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である
私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます
私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、
お客様満足と価値創造で
世界のリーディングエアライングループを目指します

免責事項

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空運送事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

Thank you.

当資料はホームページでもご覧いただけます。

This material is available on our website.

<http://www.anahd.co.jp>

(ホームページをリニューアルしました)

[日本語]株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料



ANAホールディングス株式会社 財務企画・IR部

電話番号 03(6735)1030(代) メールアドレス ir@anahd.co.jp